

2019年4月26日

報道関係各位

この資料は、ノバルティス（スイス・バーゼル）が2019年4月24日（現地時間）に発表したものを日本語に翻訳（要約）したもので、参考資料として提供するものです。資料の内容および解釈については英語が優先されます。英語版は<https://www.novartis.com>をご参照ください。

2019年第1四半期、ノバルティスは、 売上高の大幅な伸びとコア¹営業利益の二桁成長、*Mayzent*の上市、 アルコンのスピノフを完了し、コア営業利益の予想を上方修正

- アルコンのスピノフにより医薬品に集中した企業への転換が促進される；以下のコメントは継続事業²に関するもの
- 継続事業の売上高は、イノベティブ メディシンに牽引され7%増（実質ベース¹、米ドルベース 2%増）：
 - コセンティクスの売上高は、すべての適応症ならびに地域での需要の大幅な伸びにより、41%増（実質ベース）の791百万米ドルに
 - *Entresto*の売上高は、入院中からの使用に関する新たな試験データも追い風となり、85%増（実質ベース）の357百万米ドルに拡大
 - オンコロジーの売上高は、主に *Lutathera*（106百万米ドル）、*レボレード*³（307百万米ドル、実質ベース 24%増）、*Kisqali*（91百万米ドル）、*キムリア*（45百万米ドル）に牽引され、9%の増加（実質ベース）
- コア営業利益は、売上高の大幅な伸びに牽引され18%増（実質ベース、米ドルベース 9%増）
- 純利益は、減損費用（純額）および事業売却益減少の影響を受け4%増（実質ベース、米ドルベース 5%減）
- フリーキャッシュフロー¹は、マイルストーン収入を含め前年同期比横ばいの19億米ドル
- サンドの売上高は、米国における継続した価格引き下げの圧力が要因となり、2%減（実質ベース、米ドルベース 8%減）
- ブロックバスターとなる可能性がある製品の上市が順調に進み、2019年の業績への寄与が期待される：
 - *Mayzent*（シポニモド）の疾患活動性を有する二次性進行型多発性硬化症（SPMS）を含む再発型多発性硬化症（RMS）の患者への適応を上市
 - プロルシズマブ（RTH258）をEUおよび米国（優先審査パウチャーの権利を行使）で申請；2019年中の米国での上市を見込む
 - 筋ジストロフィー学会（MDA）で発表した新たな試験データにより、*Zolgensma*³（AVXS-101）の基本治療としての有効性が支持される
- 医薬品に集中した新たな組織の2019年通期のグループ業績予想⁴ – コア営業利益の予想を一桁後半の成長率（実質ベース）に上方修正；売上高の予想は一桁前半の成長率を確認
- 4月9日のアルコンのスピノフに関し、ノバルティス グループは、第2四半期の非継続事業の業績として一時的なIFRSベースの非現金収益約47億米ドルを計上
- **リチャード・セイナーがサンドのCEOに就任**

イタリック体で示されたすべての製品名は、ノバルティス グループ企業が保有またはライセンス供与されている商標です。

2019年4月24日、スイス・パーゼル発 — ノバルティス CEO のヴァス・ナラシンハン は、業績について次のようにコメントしています。

「ノバルティスは、Mayzent の上市やアルコンのスピンオフの完了、確実な業務執行を実現するなど、2019年に堅調なスタートを切りました。その結果、通年のコア営業利益の予想を上方修正しています。ノバルティスは、Zolgensma、BYL719、ブロールシズマブの上市ならびに開発後期段階にある複数のプロジェクトのデータ入手を控え、活気に満ちた時期を迎えようとしています。私たちの強力なパイプライン、生産性向上への注力、企業文化の改革の取り組みによって、ノバルティスは、2019年はもとよりその先も持続的に成長できる体制を整えています」

主要数値¹

	2019年 第1四半期		2018年 第1四半期		前年同期比 (%)	
	百万米ドル	億円 ⁵	百万米ドル	米ドルベース	実質ベース	
売上高	11 106	12 216	10 915	2	7	
営業利益	2 242	2 466	2 371	-5	4	
純利益	1 868	2 054	1 970	-5	4	
1株当たり純利益 (EPS)	(米ドル)	(円)	(米ドル)			
	0.81	89	0.85	-5	5	
フリーキャッシュフロー	1 869	2 055	1 919	-3		
コアベース						
営業利益	3 254	3 579	2 980	9	18	
純利益	2 811	3 092	2 684	5	13	
1株当たり純利益 (EPS)	(米ドル)	(円)	(米ドル)			
	1.21	133	1.15	5	13	

¹ 実質ベースの数値、コアベースの業績ならびにフリーキャッシュフローは、国際会計基準 (IFRS) に準拠していません。これらの IFRS に準拠していない数値の説明は、要約版業績報告書 (英文オリジナル版) の 41 ページに記載されています。本リリースに掲載される成長率は、特に記載される場合を除き、すべて前年同期に対するものです。² 要約版業績報告書 (英文オリジナル版) の 32 ページに定義される、アルコンを除き、イノベティブ メディシンおよびサンド (米国におけるジェネリック経口錠剤・皮膚科ポートフォリオを含む) の各事業、継続されるコーポレート機能を含む継続事業に関するもの。³ Zolgensma は、開発中の AVXS-101 (onasemnogene abeparvovec-xioi) の製品名として FDA に承認されていますが、製品そのものはいずれの承認審査当局からも販売承認または BLA 承認を得ていません。⁴ 2019 年および 2018 年の業績からアルコンならびにサンドの米国皮膚科・経口錠剤ポートフォリオを除いたもの。業績予想は、ジェネリック医薬品が 2019 年に上市されないとの前提に基づくものの、ジェネリック競合品が上市されるリスクもあります。

⁵ 日本円は、参考のため表示したもので、1 米ドル=110 円 (2019 年 1-3 月の期中平均レート、小数点第 1 位を四捨五入)

戦略に関するアップデート

ノバルティスは医薬品に特化したリーディングカンパニーとして、「オペレーション・エクセレンス」「イノベーションによる変革」「データ・サイエンスの活用」「社会における信頼構築」「社員の能力を最大限に引き出す新たな企業文化の醸成」の 5 つの優先事項を戦略的に推進しています。この一環として、2月28日の株主決議を経て、4月9日にアルコンの事業を独立した企業として分離 (スピンオフ) しました。これにより、株主は、独立した企業としてのアルコン、ならびに資本と経営を医薬品に集中させたノバルティスの両社から利益を得ることが可能となります。

ノバルティス グループは、国際会計基準 (IFRS) に則り、グループの現在および過去の財務報告データを「継続事業」と「非継続事業」に分類しています。アルコンの業績は、非継続事業として報告されています。説明の詳細は、要約版業績報告書 (英文オリジナル版) の 32 ページをご覧ください。

ノバルティスは、既に発表している通り、当局による承認を含む諸条件を満たすことを条件に、サンドの米国における経口錠剤・皮膚科ポートフォリオを 2019 年中に売却する予定

です。当該事業については、Aurobindo社への売却が完了するまで、引き続き真摯に取り組んでいきます。なお、当該事業の業績は、売却までの間、継続事業として計上されます。

2019年第1四半期（1～3月）の財務業績

以下の記述は、イノベーティブ メディシンおよびサンド（米国における経口錠剤・皮膚科ポートフォリオを含む）の各事業、継続されるコーポレート機能を含む継続事業に関するものです。非継続事業に関する情報も提供されています。

継続事業

2019年第1四半期の売上高は、主にコセンティクス、*Entresto*、*LutATHERA*、レボレード、*Kisqali* での販売量の11ポイントの伸び（実質ベース）に牽引され、111億米ドル（2%増、実質ベース7%増）となりました。販売量の大幅な伸びは、価格（3ポイント減）ならびにジェネリック医薬品との競合（1ポイント減）による影響により一部相殺されました。

営業利益は、イノベーティブ メディシンの売上高の伸びと粗利益率の改善によるプラス要因が成長分野への投資、減損費用（純額）、売却益の減少により一部相殺され、22億米ドル（5%減、実質ベース4%増）となりました。

純利益は19億米ドル（5%減、実質ベース4%増）となり、営業利益と同等の成長率となりました。1株当たり純利益（EPS）は0.81米ドル（5%減、実質ベース5%増）となり、純利益と同等の成長率を示しました。

コア営業利益は、イノベーティブ メディシンでの売上高の増加と粗利益率の改善が、*Zolgensma* などへの成長・上市のための投資により一部相殺され、33億米ドル（9%増、実質ベース18%増）となりました。コア売上高営業利益率は、実質ベースで2.6ポイント上昇し、為替による0.6ポイントのマイナス影響を合わせた米ドルベースでは、2.0ポイント増の29.3%となりました。

コア純利益は、コア営業利益の増加がGSKコンシューマーヘルスケアからのコア収益がなくなったことにより一部相殺され、28億米ドル（5%増、実質ベース13%増）となりました。コアEPSは1.21米ドル（5%増、実質ベース13%増）となり、コア純利益と同等の伸びを示しました。

フリーキャッシュフローは、ワクチン事業のGSKへの売却に伴う販売マイルストーン収入を含め、前年同期からほぼ横ばいの19億米ドルとなりました。

イノベーティブ メディシンの2019年第1四半期の売上高は、主にコセンティクスおよび*Entresto* に牽引された医薬品事業部が11%の増収（実質ベース）、主に*LutATHERA*、レボレード、*Kisqali* に牽引されたオンコロジー事業部が9%の増収（実質ベース）を示し、88億米ドル（5%増、実質ベース10%増）となりました。売上高の伸びに対する販売量の貢献は、12ポイント（実質ベース）でした。ジェネリック医薬品との競合によるマイナス影響は1ポイント（実質ベース）、価格によるマイナス影響は1ポイント（実質ベース）となりました。

サンドの2019年第1四半期の売上高は、米国を中心とした価格引き下げによる9ポイントのマイナス影響（実質ベース）が販売量の7ポイントの伸び（実質ベース）により一部相殺され、23億米ドル（8%減、実質ベース2%減）となりました。米国を除いた売上高は、4%増加（実質ベース）しました。バイオ医薬品の全世界での売上高は、*Rixathon*（リツキシマブ）、*Hyrimoz*（アダリムマブ）、*Erelzi*（エタネルセプト）が、二桁成長を継続して達成した欧州に牽引され、11%増加（実質ベース）しました。

非継続事業¹

2019年第1四半期の非継続事業の売上高には、アルコン事業部門ならびにアルコンに直接的に関わる一部のコーポレート費用の第1四半期全体の業績が含まれています。

非継続事業の2019年第1四半期の売上高は、主にサージカル事業に牽引され18億米ドル(0%、実質ベース4%増)となりました。

営業利益は、売上高の増加や3月1日付での減価償却の中止(118百万米ドル)によるプラス要因が、スピンオフに伴う一時的費用の増加、訴訟費用および成長のための投資の拡大により一部相殺され、前年同期の76百万米ドルから71百万米ドルとなりました。

非継続事業のコア営業利益は、売上高の増加と粗利益率の改善、3月1日付での減価およびソフトウェア償却の中止(30百万米ドル)によるプラス要因が成長のための投資により一部相殺され、350百万米ドル(3%減、実質ベース7%増)となりました。

非継続事業の純損益は、前年同期に計上した58百万米ドルの純利益に対し、一時的な法人税の増加等の影響を受け、101百万米ドルの損失となりました。

4月9日のアルコンのスピンオフに関連し、ノバルティスグループは、第2四半期の非継続事業として、一時的なIFRSベースの非現金収益約47億米ドルを計上する見込みです。

ノバルティスグループ全体

ノバルティスグループ全体の純利益は前年同期の20億米ドルから18億米ドルに、基本EPSは0.87米ドルから0.77米ドルに減少しました。ノバルティスグループ全体のフリーキャッシュフローは、18億米ドルでした。

経営委員会メンバーの任命

ノバルティスは、リチャード・セイナー氏をサンドのCEOに任命しました。(2019年8月1日までに就任予定)同氏は、ノバルティス経営委員会のメンバーとして、ノバルティスCEOのヴァス・ナラシンハンの直属となる予定です。

現在、GSKのClassics & Established Products, Commercial & Digital Platformsの上級副社長を務めるセイナー氏は、世界のジェネリック医薬品ならびにエスタブリッシュドメディスン領域において、20年以上にわたりリーダーとしての経験を培ってきました。現在、100億米ドルに上るエスタブリッシュドメディスンのポートフォリオを有するビジネスを牽引しており、120カ国以上で販売されている350以上のブランドを担当しています。さらに、GSKの医薬品フランチャイズ全体のデジタル・プラットフォームの責任者も務めています。

同氏は、キャリアを通じて、販売と生産の間の連携強化を立て続けに成功させるとともに、担当分野でコマースエクセレンスを強力に推進してきました。また、多様性を重視する企業文化と人材育成に焦点を当てたチームや組織の構築にリーダーシップを発揮しました。GSKに入社する前はサンドで販売業務の責任者を務めており、サンドのジェネリック事業のアジア、中南米、トルコでの市場拡大に貢献した経験も持っています。薬剤師でもある同氏は、イギリスのG. D. Searle社の医薬情報担当者として医薬品業界でキャリアを始めました。

成長の主な原動力（第1四半期の業績）

第1四半期には、成長を牽引する以下の製品・分野に継続的に注力しました。

- **コセンティクス**（791 百万米ドル、実質ベース 41%増）は、米国ならびに米国以外の地域においてすべての適応で力強い伸びを示し、需要が大幅に拡大しました。米国におけるコセンティクス（474 百万米ドル）の売上高は 49%増（実質ベース）となり、世界のその他の地域の売上高は、32%増（実質ベース）となりました。
- **Entresto**（357 百万米ドル、実質ベース 85%増）は、幅広い販売活動と 2018 年第 4 四半期に発表された PIONEER-HF 試験データの採用が奏功し、すべての地域で力強い増収を維持しました。
- **Lutathera**（106 百万米ドル）は、120 以上の拠点で積極的な治療が開始されている米国に牽引されるとともに、欧州での上市も順調に進み、引き続き販売が加速しています。AAA 社のすべてのブランド（Lutathera および放射性医薬品を含む）の売上高は、163 百万米ドルでした。
- **レボレード**（米国での製品名：Promacta）（307 百万米ドル、実質ベース 24%増）は、慢性免疫性（特発性）血小板減少性紫斑病適応の伸びに牽引され、すべての地域で力強い二桁増収を達成しました。
- **タフィンラー・メキニスト併用療法**（297 百万米ドル、実質ベース 18%増）は、転移性悪性黒色腫ならびに非小細胞肺癌（NSCLC）の適応での継続した需要や、悪性黒色腫の術後補助療法の適応の米国・欧州での大幅な伸びにより、二桁増収を継続しました。
- **ジャカビ**（258 百万米ドル、実質ベース 20%増）は、骨髄線維症ならびに真性多血症の適応に牽引され、すべての地域で二桁増収を継続しました。
- **Kisqali**（91 百万米ドル、実質ベース 115%増）は、閉経の前後や併用薬に関わらず、転移性乳がんに対する一次治療薬としての適応に牽引され、増収となりました。
- **キムリア**（45 百万米ドル）は、高い需要が継続するとともに、EU で新たに治療施設が開始され、少なくとも 1 つの適応が 14 カ国で保険償還対象となりました。保険償還に関する前進、生産能力の拡大、EU における市販時の出荷規格の緩和に牽引され、増収となりました。
- **バイオ医薬品の売上高は、Rixathon**（リツキシマブ）、**Hyrimoz**（アダリムマブ）、**Erelzi**（エタネルセプト）が継続して二桁成長を達成した欧州に牽引され、11%増（実質ベース）の 351 百万米ドルとなりました。
- **新興成長市場**（米国、カナダ、西欧諸国、日本、オーストラリア、ニュージーランドを除く全市場）の売上高は、主に中国での二桁増収（実質ベース）に牽引され、実質ベースで 10%の伸び（米ドルベース 0%）を示しました。

研究開発の強化 — 第1四半期の主な進捗

新たな承認および承認審査関連のアップデート

- **Mayzent**（シボニモド、開発コード：BAF312）が疾患活動性を有する二次性進行型多発性硬化症（SPMS）、再発寛解型多発性硬化症（RRMS）、clinically isolated syndrome（CIS）を含む再発型多発性硬化症の成人患者に対する治療薬として、FDA の承認を取得しました。Mayzent は、典型的な SPMS 患者の身体的障害進行に対し意味のある遅延効果を示す初めての経口剤です。
- **コセンティクス**の中等症から重症の尋常性乾癬の成人患者に対する適応が、中国の国家薬品监督管理局の承認を取得しました。この承認は、治療開始から 16 週の間には 87% の患者が皮膚症状の寛解またはほぼ寛解を達成した、中国で実施された第 III 相臨床試験のデータに裏付けされています。コセンティクスは、中国で承認された初めての IL-17A を特異的に阻害する生物学的製剤です。
- **キムリア**が再発又は難治性（r/r）の CD19 陽性のびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫（DLBCL）ならびに小児の r/r の CD19 陽性の B 細胞性急性リンパ芽球性白血病（ALL）の治療薬として、日本で承認されました。今回の承認により、キムリアは、アジアで

初めてかつ唯一承認された CAR-T 細胞療法となりました。承認に先立ち、キムリアの治験用製品製造に関する神戸医療産業都市推進機構への技術移転を完了させています。

- **Egaten** が全世界に 240 万人の患者がいると推定される肝蛭症の治療薬として、FDA に承認されました。この承認は、肝蛭症、ハンセン病、マラリアなどの社会的に顧みられない熱帯病による負担を軽減するためのノバルティスの取り組みを強化するものです。今回の承認にあたっては、優先審査バウチャー (PRV) の権利が行使されました。
- **Capmatinib** (開発コード: INC280) の cMET 遺伝子変異を有する非小細胞肺癌に對する適応が、FDA の希少疾病用医薬品に指定されました。

承認申請

- **プロルシズマブ (RTH258)** を 4 月に欧州ならびに米国 (優先審査バウチャーの権利を行使) で申請し、2019 年中の上市を見込んでいます。
- **サンドのペグフィルグラスチムのバイオシミラー** (先行品: アムジェンの Neulasta®) が、2016 年 6 月に受領した審査完了報告通知への対応を済ませ、4 月に FDA に再申請されました。

進行中の臨床試験の結果およびその他のハイライト

- **Zolgensma¹ (AVXS-101)** の第 III 相 STRIVE 試験の中間解析結果を、4 月に筋ジストロフィー学会で発表しました。この試験データでは、I 型 SMA に対する基本治療としての **Zolgensma** の有効性が支持されるとともに、治療を受けた患者において広範囲な SMN の発現が認められました。これまでに 150 人を超える患者が **Zolgensma** による治療を受けており、AAV9 抗体価が原因で対象から除外された患者はわずか 5%にとどまりました。II 型 SMA の患者を対象にした STRONG 試験ならびに発症前の患者を対象にした SPRINT 試験の結果を含むさらなる試験データを、5 月初旬の米国神経学会で発表する予定です。
- **Entresto** の PIONEER-HF 試験の非盲検 4 週間継続投与データを米国心臓病学会で発表しました。8 週間投与試験では、入院中に **Entresto** による治療を開始することにより再入院および NT-proBNP (心不全の重症度評価と予後予測に用いられる確立されたバイオマーカー) の継続的な低下が示され、本データではその結果がより強固であることが確認されました。
- **TQJ230** (これまでの開発コード: AKCEA-APO(a)-LRx) の全世界での開発・販売権に関するオプション権が行使されました。TQJ230 は、遺伝的にリポ蛋白(a)の値が高い患者の循環器疾患のリスクを低下させるトランスフォメーションな治療となる可能性がある製品です。承認された場合、TQJ230 は、高 Lp(a)値を特異的に標的とする薬効クラス初の治療薬となる見込みです。

資本構成および純負債額

事業への投資と最適な資本構成、魅力ある株主還元の適切なバランスの維持については、今後も引き続き優先的に取り組んでいきます。

2019 年第 1 四半期、ノバルティスは、SIX スイス証券取引所のセカンドトレーディングラインを通じて、2018 年 6 月に発表した最大 50 億米ドルの買い戻しの一環として実施した 80 万株 (1 億米ドル) を含め、合計 220 万株の自己株式を 2 億米ドルで購入しました。これに加え、社員からも 140 万株 (1 億米ドル) の株式の買い戻しを実施しました。また、同じく第 1 四半期において、社員持ち株制度関連のオプション権行使ならびに株式受け渡しにより 1,380 万株 (株式価値 5 億米ドル) が受け渡されました。ノバルティスは、社員持ち株制度による希釈化の影響を今年の残りの期間で相殺する予定です。発行済み株式総数は、2018 年 12 月 31 日時点と比べて 1,160 万株増加しました。これらの自己

¹ **Zolgensma**は、開発中の AVXS-101 (onasemnogene abeparvovec-xioi) の製品名として FDA に承認されていますが、この製品自体は、いずれの承認審査当局からも販売承認あるいは生物製剤承認申請 (BLA) の承認を取得していません。

株式の取引により、株主資本が 3 億米ドル増加する一方、自己株式の取引に伴う現金の増減は差し引きほぼゼロとなりました。

2018 年 6 月に発表した最大 50 億米ドルの自己株式の買い戻しについては、2019 年中に完了する予定です。

また、2019 年第 1 四半期には、利回り 5.125% の社債 30 億米ドルが満期を迎えたため、2019 年 2 月に全額償還しました。

2019 年 3 月 31 日現在の純負債額は、2018 年 12 月 31 日時点から 53 億米ドル増加し、215 億米ドルとなりました。純負債額の増加は、66 億米ドルの年間配当金の支払いが 2019 年第 1 四半期に継続事業から得られた 19 億米ドルのフリーキャッシュフローにより一部相殺されたことによります。

アルコンのスピノフに伴う貸借対照表への影響は、第 2 四半期の業績に反映される見込みです。アルコンは、スピノフの一環として、約 35 億米ドルの銀行借入を行うとともに、アルコンとその子会社によるノバルティスやその関連会社に対する特定の企業間債務の補償としての支払いを含む約 31 億米ドルを現金で支払いました。これによりノバルティスの純負債額が約 30 億米ドル減少しました。

2019 年第 1 四半期現在のノバルティスの長期信用格付けは、ムーディーズ投資家サービスが A1、S&P グローバル・レーティングが AA-となっています。

2019 年通期業績予想 不測の事態を除く

医薬品に集中した新たな組織での予想

2018 年および 2019 年の業績からアルコンならびにサンドの米国経口錠剤・皮膚科事業を除く

- 2019 年通期のグループの売上高は、一桁台半ばの成長率（実質ベース）を予想
- 2019 年通期の事業部門別の売上高の予想（実質ベース）：
 - イノベーターズ メディシン：一桁台半ばの増加
 - サンド：前年比ほぼ横ばい
- 2019 年通期のグループのコア営業利益の予想を上方修正：一桁台後半の成長率（実質ベース）を予想

上記の予想は、米国において 2019 年にジレニアのジェネリック医薬品の参入がないとの前提に基づいています。しかしながら、ジェネリックの競合品が上市されるリスクも残っています。

外国為替の影響

2019 年 4 月中旬の為替レートが 2019 年の残りの期間も継続すると仮定した場合、通期での為替の影響は、売上高に対しマイナス 3 ポイント、コア営業利益に対しマイナス 3 ~4 ポイントとなると予想しています。業績に対する為替影響の予想は、ノバルティスのウェブサイト毎月提供されています。

免責事項

本リリースには、現時点における将来の予想と期待が含まれています。したがって、その内容に関して、また、将来の結果については、不確実な要素や予見できないリスクなどにより、現在の予想と異なる場合があることをご了承ください。なお、詳細につきましては、ノバルティスが米国証券取引委員会に届けております Form 20-F をご参照ください。

ノバルティスについて

ノバルティスは、より充実したすこやかな毎日のために、これからの医薬品と医療の未来を描いています。私たちは、医薬品のグローバルリーディングカンパニーとして、革新的な科学とデジタルテクノロジーを駆使し、医療ニーズの高い領域で変革をもたらす治療法の開発を行っており、新薬開発のために、常に世界トップクラスの研究開発費を投資しています。ノバルティスの製品は、世界中の7億5千人以上の患者さんに届けられています。また、私たちは、ノバルティスの最新の治療法に多くの人々がアクセスできるように革新的な方法を追求しています。約10万5千人の社員が世界中のノバルティスで働いており、その国籍は約140カ国に及びます。詳細はホームページをご覧ください。

<https://www.novartis.com>

◇お問い合わせ先

ノバルティス ファーマ株式会社およびサンド株式会社について

ノバルティス ファーマ株式会社 広報統括部 TEL 03-6899-8355 FAX 03-6257-3605

E-mail japan.novartiscommunications@novartis.com

日本アルコン株式会社について

日本アルコン株式会社 広報部 TEL 03-6899-5056 FAX 03-6257-3656

E-mail jp.communication@alcon.com